

石狩の始まりは？

～“石狩十大事件”第一号？～

石狩の始まりって何だろう？

江戸時代の「石狩場所」や、縄文時代のサケ漁を思い浮かべる人も多いかと思いますが、そんな「最近」じゃありません。

南北に細長い石狩市は、西側は70km以上の海岸線で日本海に面しています。サケ漁で栄えた旧石狩も、ニシン漁で栄えた厚田・浜益も合わせて、石狩は海と切り離すことのできない「海辺のまち」。石狩の始まりとは、日本海の始まりなのです。

日本列島とユーラシア大陸を隔てる海、日本海。いつたいつからそこにあったのでしょうか？

岩石や地層には、大昔、それらが作られたころの地球の磁気が、かすかに記録されています。岩石を極めて精度の高い磁力計にかけると、当時の地磁気の方角、つまり「北」の方角が分かります。

北は北に決まってるでしょ、と思うかもしれませんが。しかし実際に、今から2千万年以上前の東北地方の岩石を調べてみると、どの結果も「北」は「北西」の方角だった、ということが分かったのです。そして、同じ時代の西日本は？という、なんとこちらの「北」は、みんな「北東」を

指していたのです。これはいつたい、どういうことでしょうか？

その答えは、すごく単純。「2千万年前まで、東北地方と西日本は別々に、今とは違う方向を向いていた」からです。

現在、関東地方あたりでカクンと曲がっている日本列島は、実はかつてはほぼ真っすぐな形で、ユーラシア大陸の端っこにへばりついていたので、当時は日本海など影も形もありませんでした。これではサケもニシンも取れません。

しかし今から2千万年前、東アジアのプレート運動に突然、変化が起きました。大陸の端っこが細長く切り離され、まるで食器棚の二枚扉を開けるように、動いていったのです。扉が日本列島、その内側にできた海が現在の日本海になりました。海辺のまち石狩の始まりは、この時だったのです。

4月27日、いしかり砂丘の風資料館は、開館20周年を迎えました。20



図1
日本海に面した石狩市



図2
2000万年前の岩石に記録された「北」は、北を向いていません。しかも、東北と西日本でバラバラの向きです。



図3
大陸にへばりついてた日本列島は、2000万年前、東北地方と西日本で別々に回転するように、大陸から離れていったと考えられています。(Otofujii et al, 1985 より作図)

年間蓄積されてきた「石狩研究」の成果をもとに、石狩をつくった「十大事件」を整理しようとしています。その結果は、4月27日から始まったテーマ展と7月開始の特別展で大公開！
(志賀健司)



石狩市学芸員
志賀健司 Kenji Shiga

専門は地質学・漂着物学・海辺学。地球の環境の変遷などを調べるとともに、石狩の浜辺にどんなものが漂着し、それがどんな意味を持っているかを研究している。

関文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711 ※火曜休館